



トステム株式会社

アルファテラスRA・RB型 標準タイプ 取付け説明書

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。※内は、ロットNo.表示位置を示します。

■取付けされる方へのお願い

- 同梱されている取扱い説明書は、必ず施主様へお渡しください。
- 本説明書で使われているマークには以下のような意味があります。

▲ 注 意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲ 注 意

※製品破損による人への被害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

●設置条件

- ・それぞれの地域に対応したテラスをお選びください。
- 一般地域600タイプ→耐えられる積雪量の目安20cm相当 (600N/m² (61.2 kgf/m²))
- 特殊地域1500タイプ→耐えられる積雪量の目安50cm相当 (1500N/m² (153.0 kgf/m²))
- 特殊地域3000タイプ→耐えられる積雪量の目安100cm相当 (3000N/m² (305.9 kgf/m²))
- ・本製品は、タイプ・サイズごとに設置可能な階数が決まっています。右記の表にしたがって取付けてください。
- ・柱の移動は、当社指定範囲内にしてください。
- ・他社商品 (バルコニーなど) と組合わせて設置しないでください。
- ・高い建物のそばや周りに障害物がなく、直接強い風が吹くような場所では補強ブレスで製品の補強をしてください。
- ・母屋の屋根からの雪が直接落ちない場所に設置してください。落雪により製品が破損するおそれがあります。
- ・風当たりの強いところでは風が抜けなくなりますので、テラスの周囲を囲わないでください。
- ・崖っぴちなどの高低差のあるところには設置しないでください。

●躯体への固定

- ・垂木掛け、柱壁付固定部品は柱・間柱・胴差しなどの構造材に必ず止めてください。躯体位置が分からない場合、および躯体が強度保持できない場合は取付けしないでください。
- ・躯体が経年変化などで損傷が著しい場合は、施主様と打合わせをし、必要に応じて補強してから取付けてください。
- ・プラグ類を使用して、モルタル部分だけで固定することは非常に危険ですから絶対に行わないでください。
- ・タッピンねじの下穴には、指定より太いドリルを使用しないでください。

●部材の固定

- ・組立てねじ・ボルトは必ず指定のものを使用してください。又、使用中緩まないように締付けてください。

●取付け時の足場について

- ・取付け時は必ず足場を設け、転落などの危険がないようにしてください。

●基礎について

- ・基礎は当社指定寸法以上にしてください。
- ・海砂を使用の場合は水洗いしたものを使用してください。アルミが腐食するおそれがあります。
- ・取付け前に調査を行い、地下埋設物 (給排水管など) に影響をおよぼさないようにしてください。
- ・寒冷地では凍上線より下まで柱を埋込んでください。凍上により浮上するおそれがあります。
- ・柱 (屋根柱は除く) には水抜きできるよう、柱基礎には必ずぐり石を敷き、柱と基礎の付け根に水抜き穴 (φ6) をあけてください。柱間の水が凍結膨張し、柱が破損するおそれがあります。
- ・養生期間は十分 (4日～1週間以上) にとり、その間は、重たいものをのせたり、振動を与えたりしないよう指示してください。
- ・コンクリート (又はモルタル) に急結材は絶対に使用しないでください。

●パネルについて

- ・屋根パネルは当社指定品をご使用ください。
- ・屋根の取付けは垂木へののみ込みが左右均等になるようにしてください。パネルが強風により、飛散するおそれがあります。

●取付け上について

- ・みだりに改造・変更をしないでください。
- ・前枠の内観右側にブランドラベルが張ってあります。間口切詰めをする際には、ブランドラベルがなくならないようにしてください。

※製品腐食のおそれがありますので、下記事項をお守りください。

●絶縁処理

- ・アルミ形材が亜鉛・ステンレス以外の金属と接触するときは、絶縁処理をしてください。

※水漏れのおそれがありますので、下記事項をお守りください。

●シーリングについて

- ・シーリングは指定個所に必ず行ってください。
- ・外壁の上から部材を取付ける場合は、コーキング材を下穴に充てんしてからねじ止めしてください。
- ・シリコンシーリングを行う場合、アクリル板およびポリカーボネート板のひび割れなどが考えられますので、当社指定のアルコール系コーキング材を使用してください。

■アルファテラス 標準タイプ

	1階	2階	3階
3・4R	○	○	○
5・6R	○	○	×
7～10R 12・15R	○	×	×

■アルファテラス 下止めタイプ

	1階	2階	3階
3・4R	○	○	○
5～7R	○	○	×

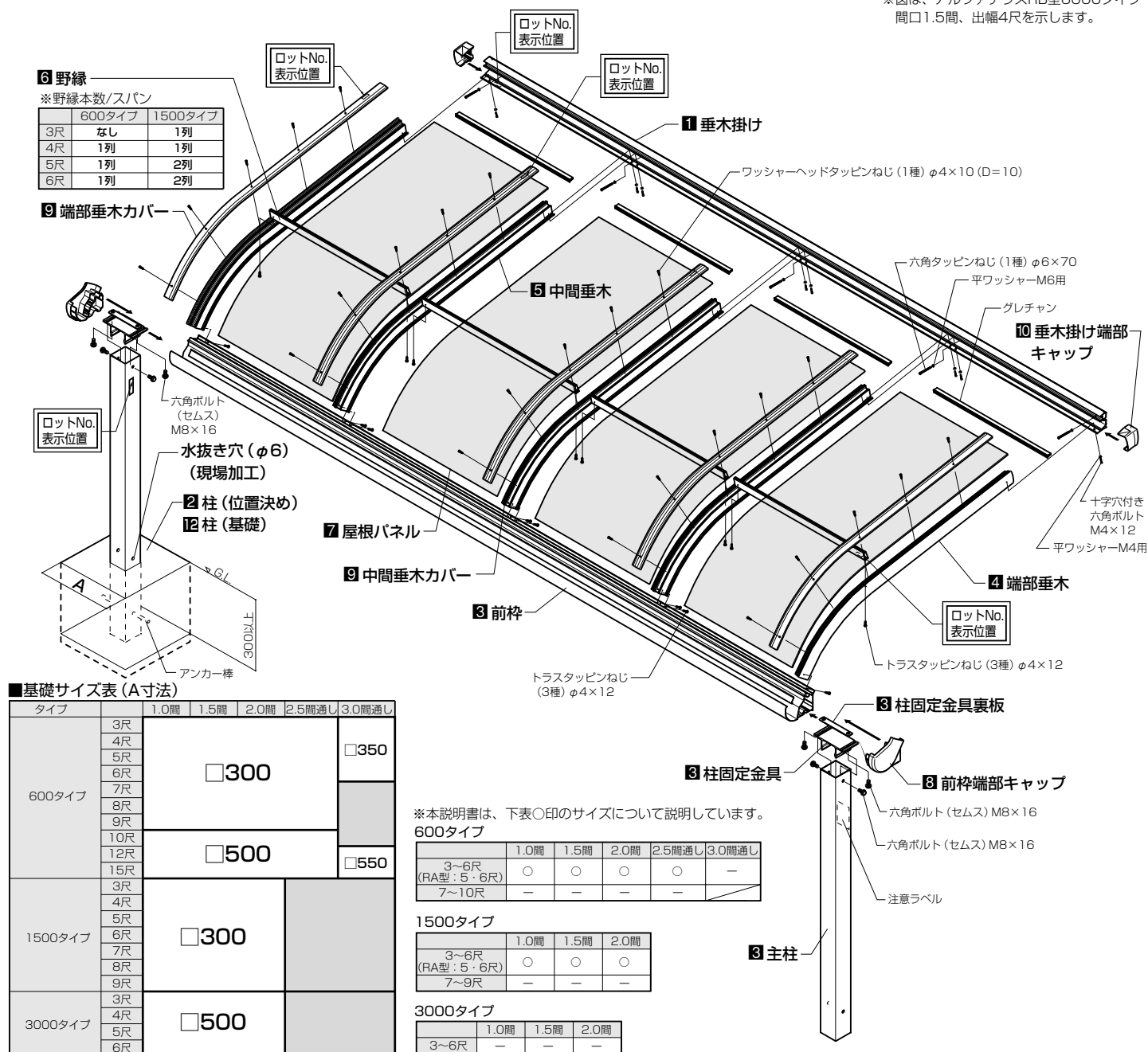
※3.0間通しは、1階のみ設置可能です。



■取付け上へのお願い

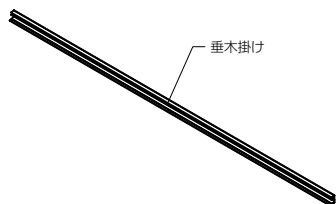
- 水平・垂直は水準器などで正確に出してください。
- 取付けは専門業者が行ってください。
- 当社指定の付属品以外は取付けしないでください。

※図は、アルファテラスRB型6000タイプ
間口1.5間、出幅4尺を示します。



■取付け順序

1 垂木掛けの固定



▲注意

- シリコンシーリングを行う場合は指定のアルコール系コーキング材を使用してください。
- ・信越化学工業 シーラント72
- ・東芝シリコン トスシール380
- ・東レシリコン SE960

■取付け詳細

1 垂木掛けの固定

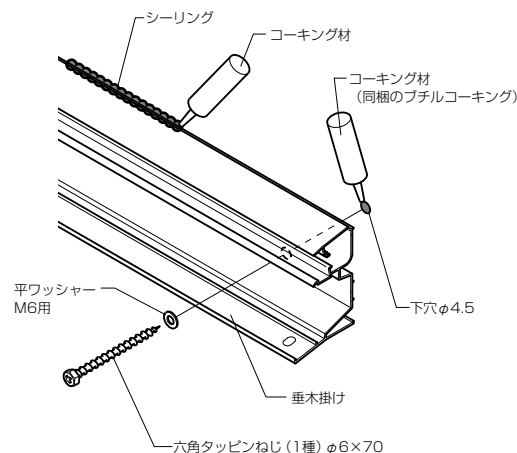
- 垂木掛けを躯体に取付ける際、必ず水準器で水平を出してください。

▲注意

- 垂木掛けは必ず躯体の柱・間柱などの構造材に取付けてください。
- 躯体が経年変化などで損傷が著しい場合は、施主様と打合わせをし、必要に応じて補強してから取付けてください。
- 指定の個所に必ずシーリングしてください。

【関西間・九州四国間・メーターモジュールの場合】

- 関西間・九州四国間・メーターモジュールの場合、垂木掛けに躯体取付け用の穴はあいていません。柱および間柱の位置に合わせて $\phi 6.5$ の穴をあけてください。



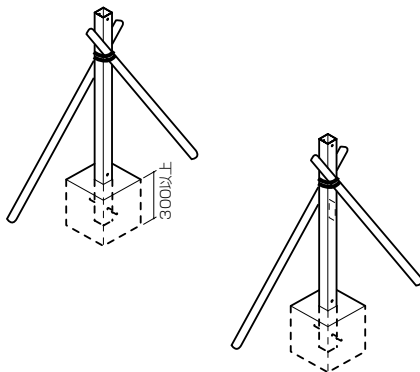
2 柱の位置決め

<柱を基礎で固定する場合>

- ①柱埋込み位置決定
- ②柱の仮固定

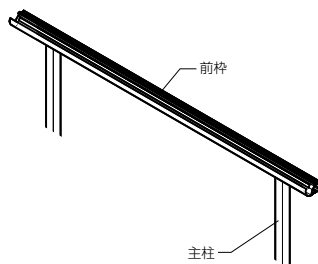
<造付けバルコニーの場合>

- ①柱キャップの取付け
- ②柱壁付用固定部品の取付け
- ③柱の仮止め
- ④柱の固定



3 柱-前枠の取付け

- ①柱固定金具と前枠の固定
- ②柱固定金具と柱の固定



▲ 注意

- 前枠の内観右側にブランドラベルが張ってあります。間口切結めをする際は、ブランドラベルがなくならないようにしてください。

2 柱の位置決め

<柱を基礎で固定する場合>

- ※注意ラベルが必ず内側にくるように設置してください。
- ①柱埋込み位置を出し、基礎穴を掘ります。柱の位置は右図とP.8の納まり図を参考に決めてください。
 - ②柱が倒れないように仮固定してください。

<柱を造付けバルコニーに固定する場合>

- ※注意ラベルが必ず内側にくるように設置してください。
- ①柱の下部に柱キャップを図のように取付けてください。
 - ②部品の取付け
躯体に柱壁付用固定部品を取付けます。

▲ 注意

- 柱壁付用固定部品は必ず柱・間柱などの構造材に固定してください。
- 躯体位置が分からない場合および躯体が強度保持できない場合は取付けしないでください。

※固定部品の間は600mm以上あけてください。

③柱の仮止め(垂直出し)

- 1.柱を上側の部品固定穴をφ8(貫通穴)で加工してください。
- 2.柱を上側の部品に取付け、垂直を出して、ねじで仮止めします。

④柱の固定

- 1.下側の部品にあいている穴に合わせ、φ8(貫通穴)をあけます。
- 2.ボルトで柱を固定します。

▲ 注意

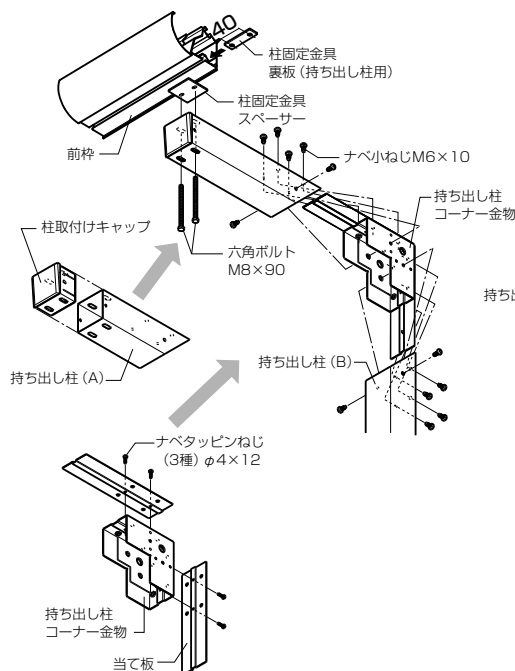
- 指定の個所に必ずシーリングしてください。

3 柱-前枠の取付け

- ①柱固定金具裏板を前枠の溝に挿入し、柱固定金具とボルトで仮固定してください。④の端部垂木を取付けた後、直角を出して固定してください。
- ②柱固定金具を柱に差込み、固定してください。

<持ち出し柱の場合>

- ※はじめに必ず柱取付けキャップを取付けてください。
※柱固定金具裏板は持ち出し柱用(穴ピッチ40)を使用してください。



<持ち出し柱の切結め>

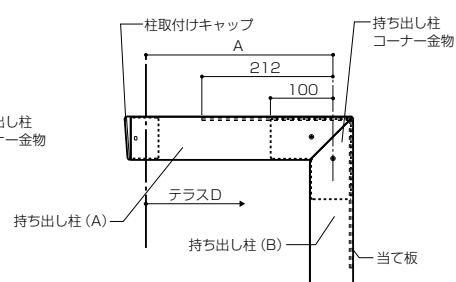
- 図、切結め寸法計算式および加工図より、切結め加工してください。

※切結め寸法は180mmまで可能です。

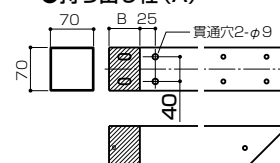
(切結め寸法計算式)

$B = 300 - A$ (切結め寸法Bは0~180mmまで可能です。)

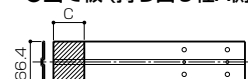
$C = 232 - A$ (A寸法が232以上の場合、C=0です。)



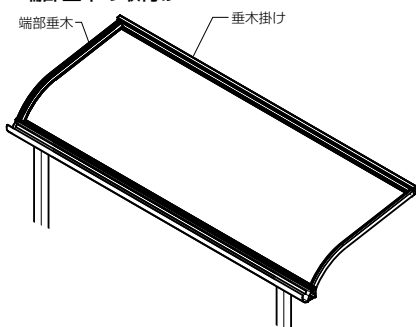
●持ち出し柱(A)



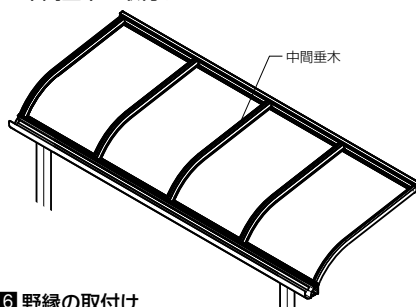
●当て板(持ち出し柱A側)



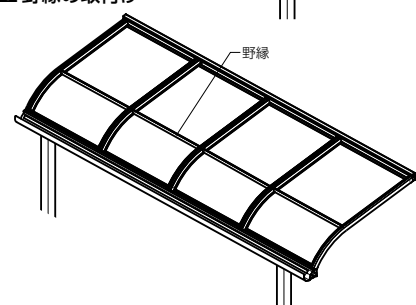
4 端部垂木の取付け



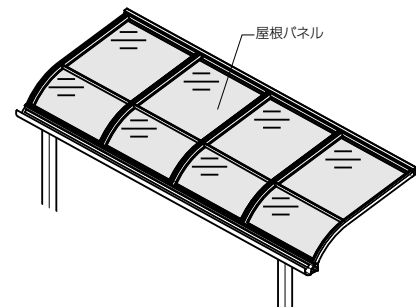
5 中間垂木の取付け



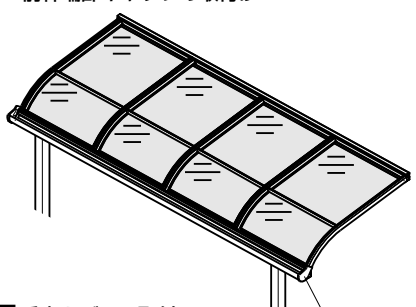
6 野縁の取付け



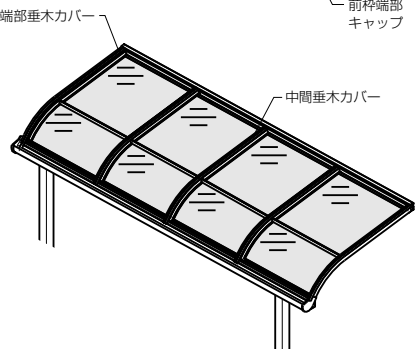
7 屋根パネルの取付け



8 前杢端部キャップの取付け

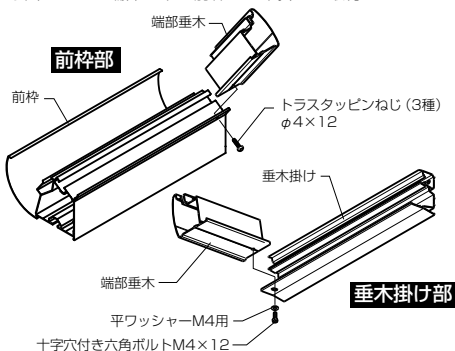


9 垂木カバーの取付け



4 端部垂木の取付け

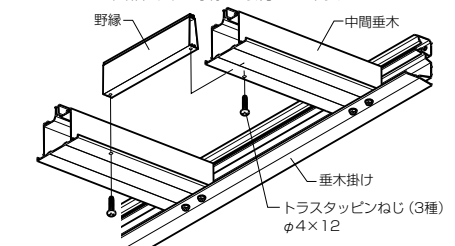
●図のように端部垂木を前杢・垂木掛けに取付けてください。



6 野縁の取付け

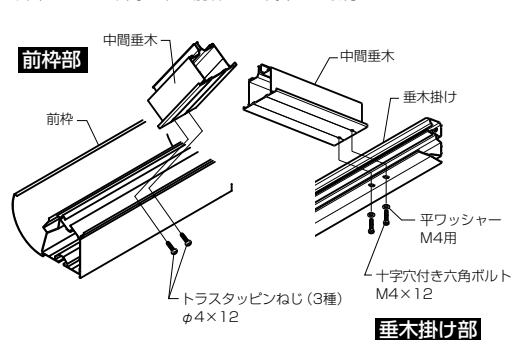
●真中のスパンから順に図のように野縁を垂木又は端部垂木にねじ止めしてください。

※600タイプ出幅3尺は野縁の取付けは不要です。



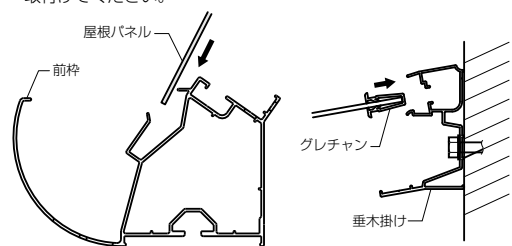
5 中間垂木の取付け

●図のように中間垂木を前杢・垂木掛けに取付けてください。



7 屋根パネルの取付け

●グレチャンを取付け、図のように垂木掛け、前杢パネル押え部に取付けてください。

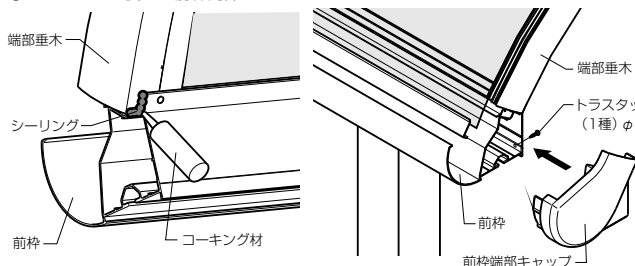


8 前杢端部キャップの取付け

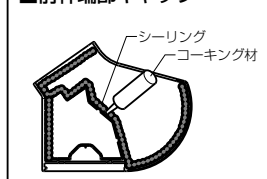
①前杢と端部垂木の接合部に図のようにシーリングをしてください。

②前杢端部キャップにシーリングをした後、前杢にねじ止めてください。前杢には、右図を参考に下穴φ3.5をあけてからねじ止めてください。

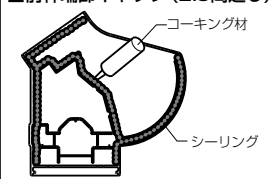
③ねじ止めた後に、前杢内部にシーリングしてください。



■前杢端部キャップ



■前杢端部キャップ (2.5間通し)

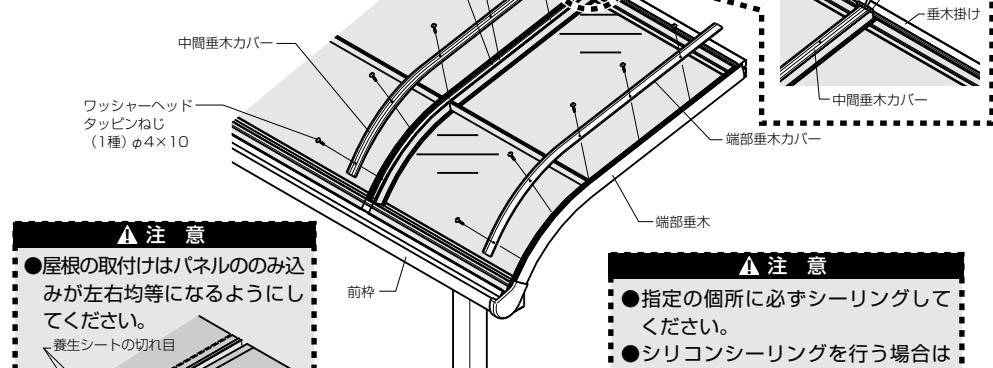


9 垂木カバーの取付け

①垂木カバーを垂木掛け側から押込み、

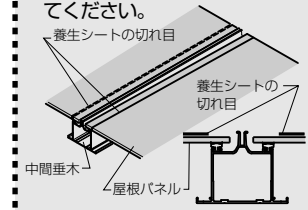
図のようにねじ止めてください。

②図のようにシーリングしてください。



▲注意

●屋根の取付けはパネルのみ込みが左右均等になるようにしてください。



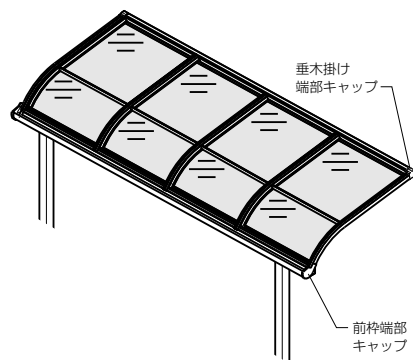
▲注意

●指定の個所に必ずシーリングしてください。

●シリコンシーリングを行う場合は指定のアルコール系コーキング材を使用してください。

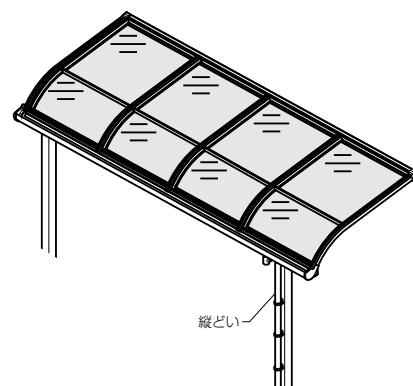
・信越化学工業 シーラント72
・東芝シリコン トスシール380
・東レシリコン SE960

10 垂木掛け端部キャップの取付け



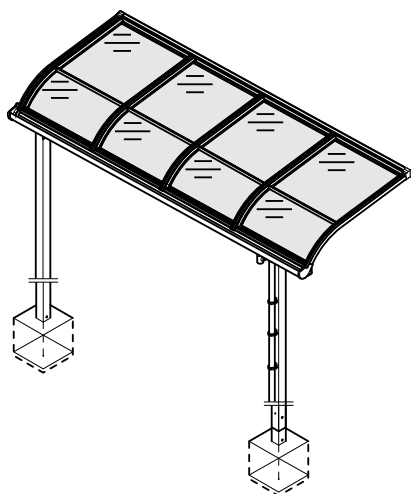
▲ 注意
● 指定の個所に必ずシーリングしてください。

11 雨どいの取付け



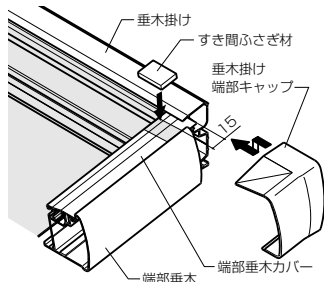
▲ 注意
● シリコンシーリングを行う場合は指定のアルコール系コーキング材を使用してください。
・信越化学工業 シーラント72
・東芝シリコン トスシール380
・東レシリコン SE960

12 柱 (基礎)

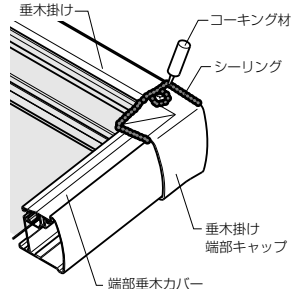
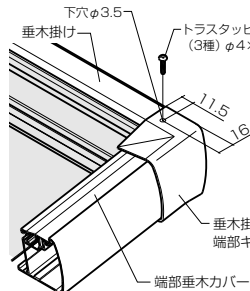
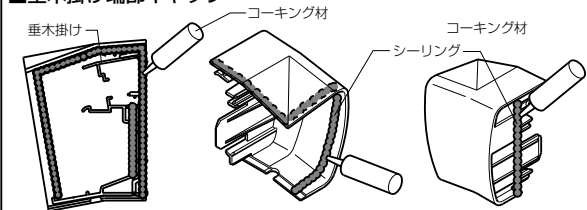


10 垂木掛け端部キャップの取付け

- ① 端部垂木カバーの端部より15mmのところにつき間ふさぎ材を張ります。
- ② 垂木掛け端部キャップにシーリングをした後、垂木掛け上部に押さえ付けながらキャップを取付けてください。
- ③ 取付けた端部キャップに下図を参考に下穴φ3.5をあけてください。
※ 障害物などによりねじの取付けが不可能な場合は、下穴加工およびねじ止めは不要です。
※ 下穴は垂木掛けの形材まであけてください。
- ④ 端部キャップを手回しドライバーでねじ止めしてください。
- ⑤ ねじ止めした後に、垂木掛け端部キャップの上部に図のようにシーリングしてください。

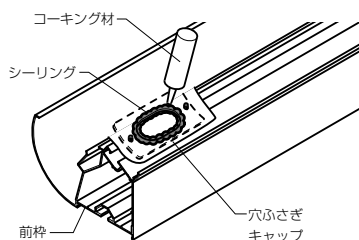


■ 垂木掛け端部キャップ



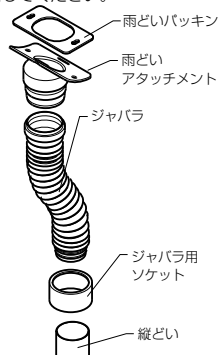
11 雨どいの取付け

- ① 図のように雨どい部品を取付けてください。
 - ② 雨どい穴ふさぎキャップ取付け後、図のようにシーリングしてください。
- ※ 前面スクリーン (オプション) を取付ける場合は、柱の外側に縦どいを取付けてください。



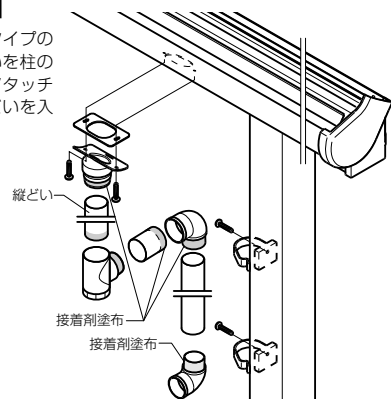
▲ 注意
● 指定の個所に必ずシーリングしてください。

※ 柱移動によりドレンエルボが使用できない場合はジャバラを使用してください。



【雨どいを側面に取付ける場合】

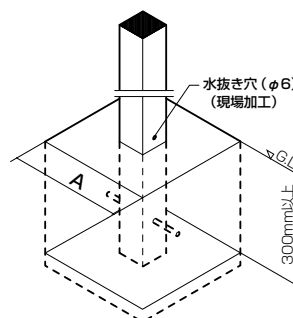
※ 600タイプ2.5間通し、1500タイプの前枠に取付ける場合などで、といを柱の側面に取付けるときは、雨どいアタッチメントとドレンエルボの間に縦どいを入れて調整してください。



12 柱 (基礎)

- ① 図の寸法で、柱埋込み穴をコンクリート (又はモルタル) で埋めてください。
※ A寸法はP.2の基礎サイズ表をご覧ください。
※ 基礎に水が溜まりやすい場合は、基礎自体に水こう配をつけてください。
- ② 柱と基礎の付け根に水抜き穴 (φ6) をあけてください。

▲ 注意
● 地下埋設物 (給水管など) に影響をおよぼさないようにしてください。
● コンクリート (又はモルタル) に急結材は絶対に使用しないでください。
● 海砂はアルミを腐食させるおそれがありますので、水洗いしたものをご使用ください。



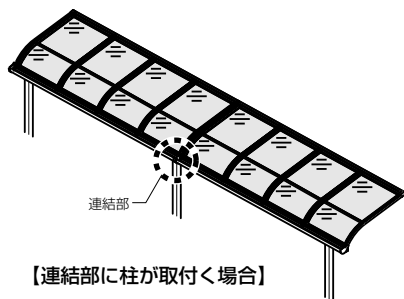
■連棟タイプの場合1

※連棟時の間口部材（前枠・垂木掛け）の切詰めは不要です。

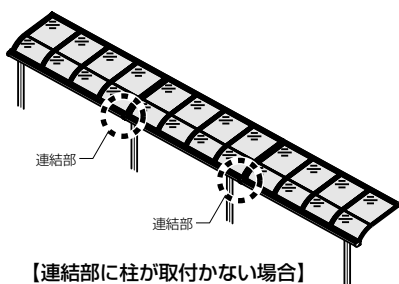
1 前枠の加工

2 垂木掛けの取付け

3 前枠連結部の組立て…①前枠スリーブの取付け
②前枠ジョイントカバーの取付け



【連結部に柱が取付く場合】



【連結部に柱が取付かない場合】

▲ 注意

●シリコンシーリングを行う場合は指定のアルコール系コーキング材を使用してください。

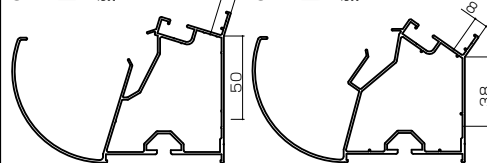
- ・信越化学工業 シーラント72
- ・東芝シリコン トスシール380
- ・東レシリコン SE960

1 前枠の加工

●前枠の連結する側の端部に図のようにφ5の穴をあけてください。

●RA型の加工

●RB型の加工



【連結部に柱が取付く場合】 【連結部に柱が取付かない場合】

2 垂木掛けの取付け

●垂木掛けの躯体取付け穴（φ6.5）を柱や間柱など躯体構造位置に合わせてあけ直した後取付けてください。

▲ 注意

●指定の個所に必ずシーリングしてください。

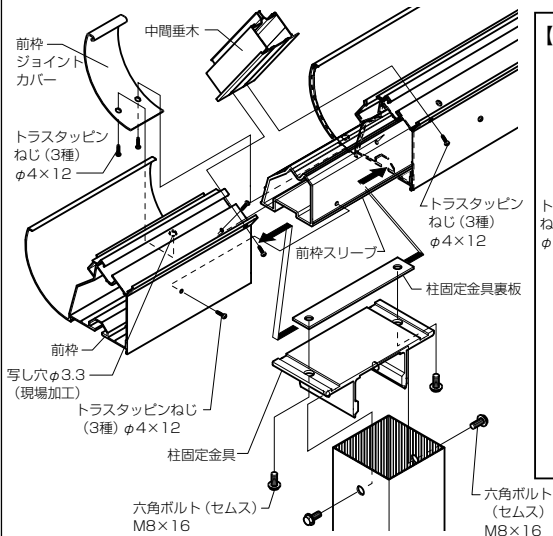
3 前枠連結部の組立て

①前枠を前枠スリーブにねじ止めします。

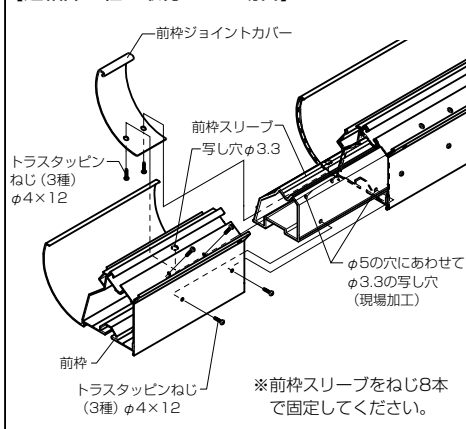
②前枠ジョイントカバーをねじ止めします。

※連結部には垂木が取付きます。

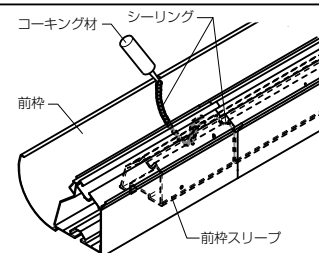
※前面スクリーン（オプション）を取付ける場合は前枠ジョイントカバーは取付けしないでください。



【連結部に柱が取付かない場合】



※前枠スリーブをねじ8本で固定してください。



▲ 注意

●指定の個所に必ずシーリングしてください。

■連棟タイプの場合2（600タイプ 2.5間通しを使った連棟の場合）

※連棟時の間口部材（前枠・垂木掛け）の切詰めは不要です。

※「前枠の加工・垂木掛けの取付け」については「連棟タイプの場合1」と同様に行ってください。

1 前枠の加工

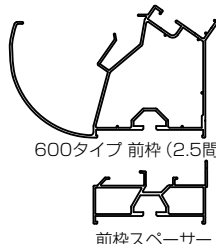
2 前枠の組立て

1 前枠の加工

●「連棟タイプの場合1」を参照してください。

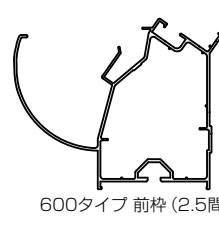
2 前枠の組立て

※600タイプ2.5間通しとの連結の場合、2.5間以外の前枠に前枠スペーサーを取付けます。



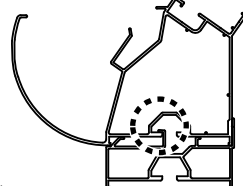
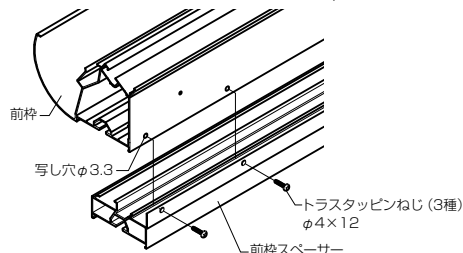
600タイプ 前枠 (2.5間以外)

前枠スペーサー



600タイプ 前枠 (2.5間通し)

●図のように標準の前枠に前枠スペーサーを合わせ、φ3.3の写し穴を開け、固定してください。

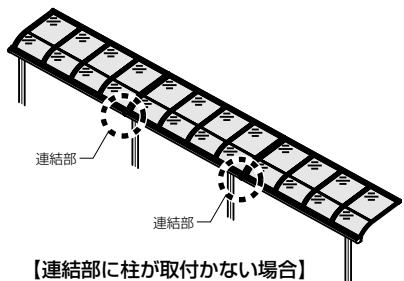
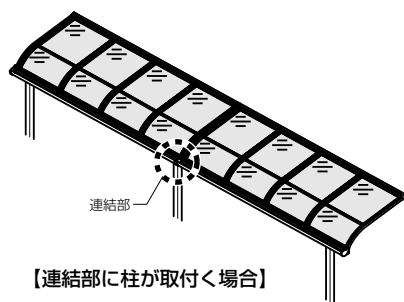


※フィンが引っ掛かっていることを確認して、取付けてください。

3 垂木掛けの取付け

4 前枠連結部の取付け

①前枠スリーブの取付け
②前枠ジョイントカバーの取付け



3 垂木掛けの取付け

●「連棟タイプの場合1」を参照してください。

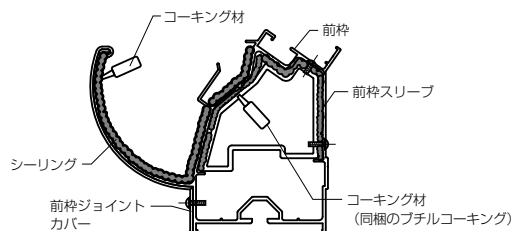
4 前枠連結部の取付け

●連結部の取付け方法については、「連棟タイプの場合1」を参照してください。

※前枠ジョイント部については、下図を参照してください。

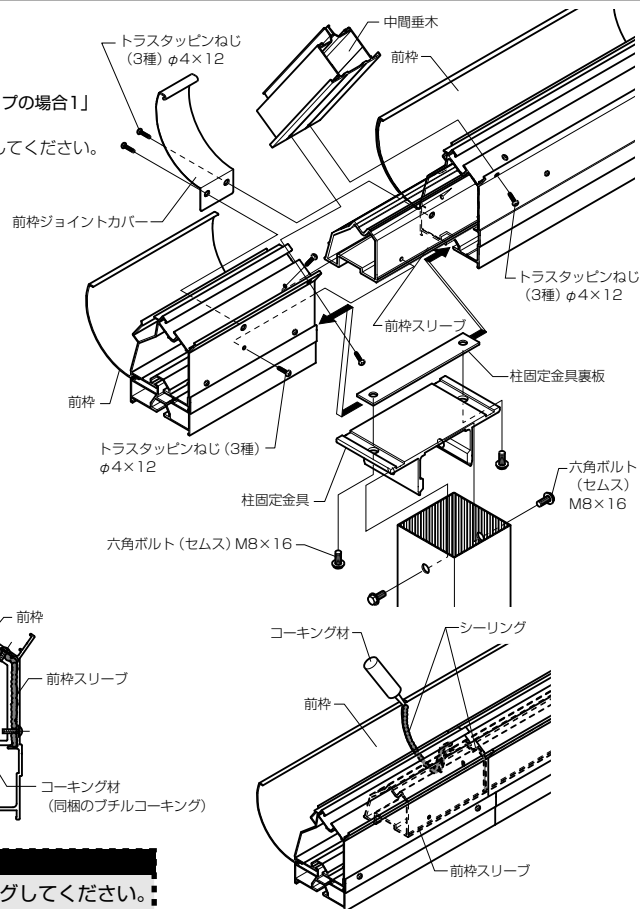
※前面スクリーン（オプション）を取付ける場合は前枠ジョイントカバーは取付けないでください。

※ジョイント部シーリング箇所



▲ 注意

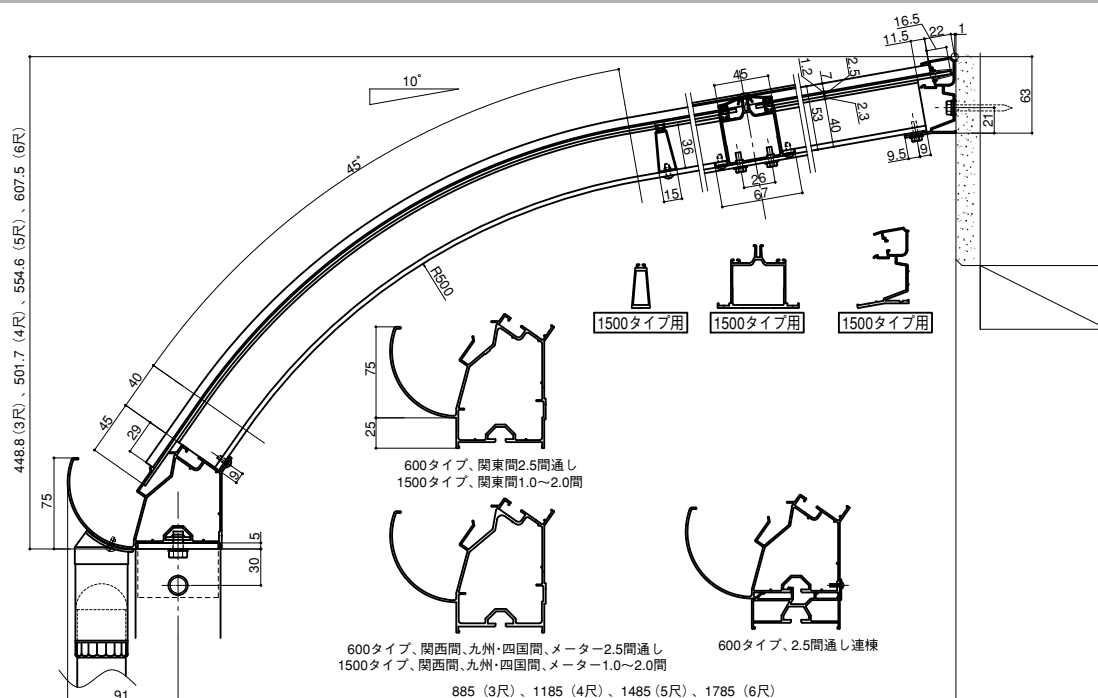
●指定の個所に必ずシーリングしてください。



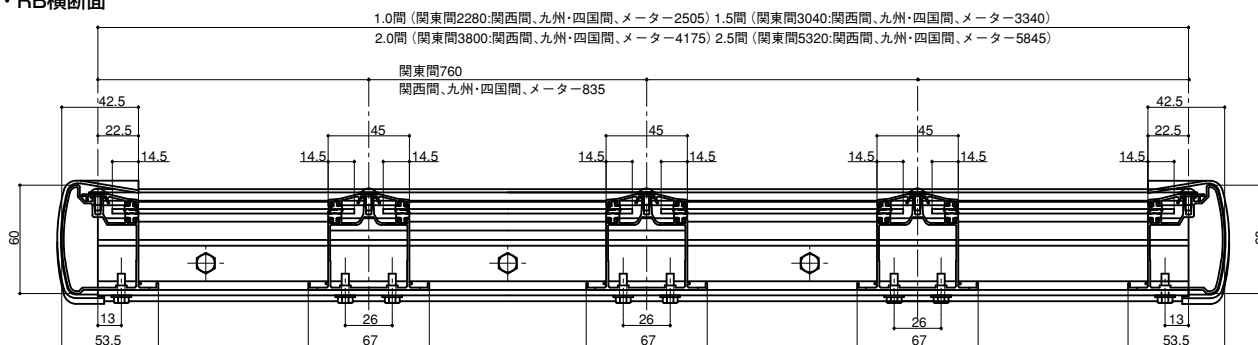
■納まり図

●RB型

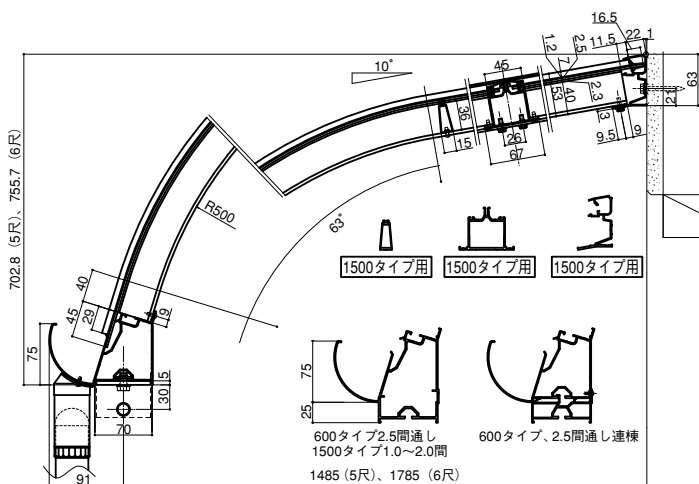
●縦断面



●RA・RB横断面



●RA型

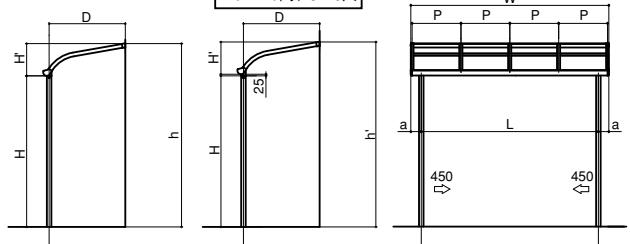


●単体

600タイプ
1.0~2.0間、3~6尺

600タイプ
2.5間通し、3~6尺

1500タイプ
1.0~2.0間、3~6尺



出隅

呼称	D
3尺	885
4尺	1185
5尺	1485
6尺	1785

※h' (600タイプ2.5間通し、1500タイプの場合) は、h+25

※本図は、標準納まりを示します。

長尺柱の長さは、標準納まりの+600mmになります。

※造付けバルコニー接続の場合、H=2250mm、(長尺柱の長さは+450mm) になります。

高さ

呼称	RAタイプ			RBタイプ		
	H	H'	h	H	H'	h
3尺	—	—	—	2350	448.8	2798.8
4尺	—	—	—		501.7	2851.7
5尺	2200	702.8	2902.8		554.6	2904.6
6尺		755.7	2955.7		607.5	2957.5

間口 (関東間)

間口	P	L	W	a
1.0間	760	1850	2320	235
1.5間		2755	3080	162.5
2.0間		3650	3840	95
2.5間		4605	5360	377.5

間口 (九州・四国間)

間口	P	L	W	a
1.0間	835	1945	2545	300
1.5間		2900	3380	240
2.0間		3855	4215	180
2.5間		4845	5885	520

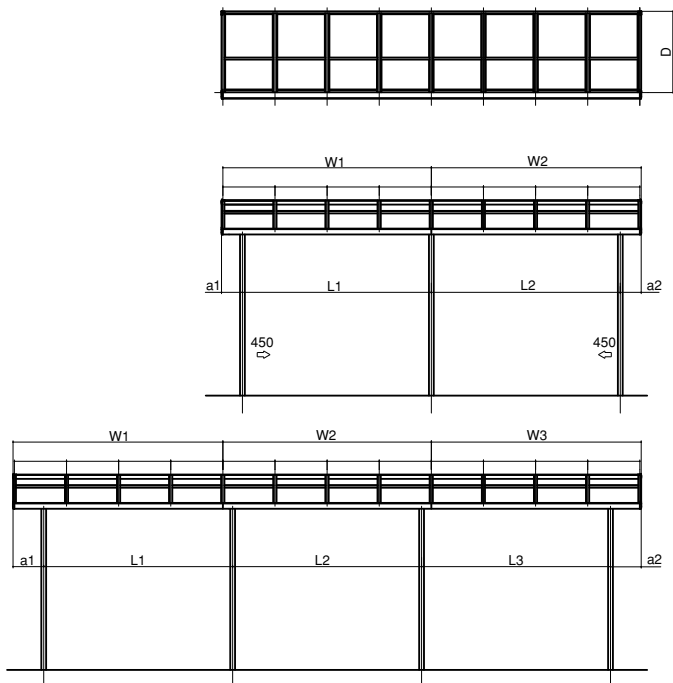
間口 (関西間)

間口	P	L	W	a
1.0間	835	2050	2545	247.5
1.5間		3005	3380	187.5
2.0間		3960	4215	127.5
2.5間		5055	5885	415

間口 (メーター)

間口	P	L	W	a
1.0間	835	2000	2545	272.5
1.5間		3000	3380	190
2.0間		4000	4215	107.5
2.5間		5000	5885	442.5

●連棟



間口 (関東間)

間口	P	L1	L2	L3	W1	W2	W3	a1	a2
3.0間 (1.5+1.5)	760	2755	2755	—	3060	3060	—	305	305
3.5間 (1.5+2.0)		2755	3650	—	3060	3820	—	305	170
4.0間 (2.0+2.0)		3650	3650	—	3820	3820	—	170	170
4.5間 (1.5+1.5+1.5)		2755	2755	2755	3060	3040	3060	447.5	447.5
5.0間 (1.5+2.0+1.5)		2755	3650	2755	3060	3800	3060	380	380

間口 (関西間)

間口	P	L1	L2	L3	W1	W2	W3	a1	a2
3.0間 (1.5+1.5)	835	3005	3005	—	3360	3360	—	355	355
3.5間 (1.5+2.0)		3005	3960	—	3360	4195	—	355	235
4.0間 (2.0+2.0)		3960	3960	—	4195	4195	—	235	235
4.5間 (1.5+1.5+1.5)		3005	3005	3005	3360	3340	3360	522.5	522.5
5.0間 (1.5+2.0+1.5)		3005	3960	3005	3360	4175	3360	462.5	462.5

間口 (九州・四国間)

間口	P	L1	L2	L3	W1	W2	W3	a1	a2
3.0間 (1.5+1.5)	835	2900	2900	—	3360	3360	—	460	460
3.5間 (1.5+2.0)		2900	3855	—	3360	4195	—	460	340
4.0間 (2.0+2.0)		3855	3855	—	4195	4195	—	340	340
4.5間 (1.5+1.5+1.5)		2900	2900	2900	3360	3340	3360	680	680
5.0間 (1.5+2.0+1.5)		2900	3855	2900	3360	4175	3360	620	620

間口 (メーター)

間口	P	L1	L2	L3	W1	W2	W3	a1	a2
3.0間 (1.5+1.5)	835	3000	3000	—	3360	3360	—	360	360
3.5間 (1.5+2.0)		3000	4000	—	3360	4195	—	360	195
4.0間 (2.0+2.0)		4000	4000	—	4195	4195	—	195	195
4.5間 (1.5+1.5+1.5)		3000	3000	3000	3360	3340	3360	530	530
5.0間 (1.5+2.0+1.5)		3000	4000	3000	3360	4175	3360	447.5	447.5

〈木造軸組工法関東間躯体納まり図例〉

